

令和元年 7 月 25 日 広島県環境政策課

広島県の気候変動適応に係る取組について

1 第 2 次広島県地球温暖化防止地域計画

・現「地球温暖化防止地域計画」(計画期間:平成 23 年度～令和 2 年度)において、別紙のとおり「温暖化への適応」を盛り込んでいる。

2 適応策の実施

・近年の夏の暑さが厳しくなっていることから、熱中症対策のため、男女を問わず使える日傘の使用を呼びかけている。

(1) 中国 5 県一斉街頭啓発

地球温暖化防止に向けて、県民の省エネ意識を改めて喚起し、その行動変容を促すため、行政、経済界等が協働し、中国地方初の取組として、中国 5 県一斉街頭啓発を令和元年 7 月 7 日に実施した。(場所:広島駅南口)

その際に、日傘の使用を呼びかけた。



協力

- ・ 広島市立広島工業高等学校生徒
- ・「ひろしま、宝しまレディ」
- ・「広島県ご当地キャラクター（ブンカッキー、ゆっぴー）」

(2) 岡山・広島両県知事会議

令和元年 7 月 10 日に広島県竹原市で開催された両県知事会議において、岡山県伊原木知事と広島県湯崎知事が視察の際、日傘を使用した。

第5節 温暖化への適応

- 温暖化対策は、人間活動から排出される二酸化炭素等の温室効果ガスを削減し、大気中の温室効果ガス濃度の上昇を抑えて、温暖化の進行を食い止めるための「緩和策（排出削減策）」と、私達の生活・行動様式を変更したり、防災投資を増加したりといった自然・社会システムの調節を通じて、温暖化による悪影響を軽減する「適応策」に分類することができます。
- 県では、平成 20（2008）年度に実施した「広島県内における温暖化影響調査」において、今後、特に監視していく必要がある温暖化による影響について、次の取り組みを行っています。

〔農業への影響〕

- ・ 広島県の農業への影響について、近年の気温上昇と直接的な関係は見出せないものの、夏季の高温などによって品質の低下や収量の減少などが発生しており、温暖化の進展により、この傾向が強まることが懸念されています。また、冬季の気温が高い年には、害虫の越冬量の増加や春季の出現時期が早期化する傾向が見られます。
さらに、南方系害虫の侵入や生息域の拡大に注意を払う必要があります。
- ・ 畜産業について、温暖化による直接的な影響は確認されていませんが、乳牛は特に夏場の暑さ対策が重要となっています。
- ・ かき養殖について、へい死率が高かった昭和 54（1979）年、平成 6（1994）年、平成 14（2002）年は、平年より高水温で少雨傾向の年であり、水温上昇によるかきへの影響が懸念されています。
- ・ また、近年、瀬戸内海で熱帯・暖海性の魚類が頻繁に採取される情報があり、温暖化に伴う海水温の上昇も要因の一つと考えられています。

〔県民生活への影響〕

- ・ 広島県内においても過去様々な自然災害が発生しており、今後、気候変動が進行すれば、更に台風や豪雨などによる災害が増加する可能性も考えられます。
- ・ 国・県・市町の各自治体では、浸水想定区域を示したハザードマップを作成するなど、災害に備えた情報を提供しています。
- ・ 健康被害について、熱中症患者数は近年増加傾向を示しており、夏季の高温に対する注意が必要となっています。
- ・ 日本でも昔流行したマラリアやデング熱といった感染症を媒介する蚊（ヒトスジシマカ、コガタハマダラカ）が現在も生息しており、衛生水準の高い我が国においては、直ちに感染が広がる懸念はありませんが、発生状況を監視していく必要があります。

- 適応策の実施について
引き続き、温暖化の影響に関する情報収集に努めるとともに、庁内関係部局との情報の共有化を進め、必要に応じて適応策の検討を行います。